

日本LD学会第31回大会@京都国際会議場 自主シンポジウム

UDLガイドラインを活用した授業改善を促す 教員研修の試み

-オンライン研究会による研修の成果と課題-



福岡教育大学
大学院教育学研究科
教職実践専攻
スクールリーダーシップ開発コース
特別支援教育推進Co
プログラム担当
納富恵子

<http://www.notomikeiko.com>

科研「UDLガイドラインによる授業改善をめざす小学校・中学校教員への実践的研修の実装」による

2018 2・28 CAST MA USA



福岡教育大学教職大学院

スクールリーダーシップ 開発コース

理論と実践の往還 講義・演習・実習・研究

2021年度 福岡教育大学教職大学院 紹介動画

<https://www.fukuoka-edu.ac.jp/news/archives/805>

主に教育委員会派遣研修の現職院生課題解決を目指した研究

- 教科教育リーダープログラム
- 学校適応支援リーダープログラム（西山）
- 特別支援教育推進コーディネータープログラム（納富）
- 学校運営リーダープログラム



北大路書房

有斐閣

祝 11刷

小泉 令三 西山 久子 納富 恵子 脇田 哲郎 著



校内研究の 新しいかたち

エビデンスにもとづいた教育課題解決のために

校内研究時
必携のマニュアル書。

いじめ、不登校、非行、特別支援教育などの事例を題材に、テーマ設定から成果報告までワークや図表を交えながら解説。

実践研究とは？

校内研修・

「可視化」できる

教育効果を

教育課題・

北大路書房



企画趣旨

学びのユニバーサルデザイン

(Universal Design for Learning:UDL) (CAST)

クラス生徒の多様性に対応し、学びの障壁をなくし、

学習者を学びのエキスパートとして育成する枠組み

米国:学校区や学校で組織的にUDLの教員研修が継続され
授業に活用 (Rao & Meo,2016 ; UDL-IRN)。

日本:教職大学院院生とUDLを参考にした授業改善と効果を検証
(例 実践例の蓄積・千々和・納富,2012, 内田,2016 等)。

*米国調査や福岡県での実践成果を活用し、実践的研究
会を計画実施し、研修として提供 成果と課題を整理。

*研修参加後に算数科の授業改善に取り組まれた立命館
大学教職大学院大橋教諭の実践を紹介いただき協議



本日の流れ

【話題提供】

- *福岡UDL実践研究会などUDLの活用をめざした研修会の工夫を紹介(納富恵子)
- *オンライン研究会(2022年3月)の内容と成果
(西山久子氏)
- *研修会受講者でUDLを活用した小学校算数科の授業実践の工夫と成果(大橋均氏)

【指定討論】

- *実践面:UDLを活用した算数科授業の効果検証の経験のある北九州市小学校校長(千々和知子氏)
- *理論面:UDLガイドラインの日本への紹介者
(バーンズ亀山静子氏)

日本LD学会第31回大会@京都国際会議場 自主シンポジウム

話題提供 I

自主的にUDLを活用したくなる

研修を構築するための工夫



福岡教育大学
大学院教育学研究科

教職実践専攻

スクールリーダーシップ開発コース

特別支援教育推進Co

プログラム担当

納富恵子

<http://www.notomikeiko.com>

2018 2・28 CAST MA USA



発達障害 通常の学級に 6.5%

通常の学級には多様な子どもたちが学んでいる。

LD AD/HD ASD さらに 境界知能 軽度知的障害
学習に空白のある生徒 虐待 母語が異なる生徒 学ぶ機会が少ない生徒

悪循環

繰り返し学習を強いられ、さらに叱責

強みにもとづき、意欲的に学べ、効果的学習で、認められる

好循環

インクルーシブ教育の実現のためには、多様な学習者が
学びに参加できる具体的な指導の工夫が必要



UDL

Universal Design for Learning

UDLガイドラインは、
認知科学や学習科学に基づいた理論を
9つのガイドラインに統合し
教育者が自らの授業を振り返り、学習者
が直面する障壁を軽減する授業計画の
設計に参考になる。

取り組みのための多様な方法を提供しましょう



感覚のネットワーク
「なぜ」学ぶのか

提示(理解)のための多様な方法を提供しましょう



認知のネットワーク
「何を」学ぶのか

行動と表出のための多様な方法を提供しましょう



方略のネットワーク
「どのように」学ぶのか

興味を持つ のためのオプションを提供する (7)

- 様々な人の選択や自主性を尊重にする (7.1)
- 自分との関連性・価値・興味を尊重にする (7.2)
- 不安要素や気を散らすものを最小限にする (7.3)

知覚する のためのオプションを提供する (1)

- 情報の表し方をカスタマイズする方法を提供する (1.1)
- 聴覚情報を、代替の方法でも提供する (1.2)
- 視覚情報を、代替の方法でも提供する (1.3)

身体動作 のためのオプションを提供する (4)

- 応答様式や学習を進める方法を変える (4.1)
- 教具や支援テクノロジーへのアクセスを尊重にする (4.2)

努力やがんばりを続ける のためのオプションを提供する (8)

- 目標や目的を日立たせる (8.1)
- チャレンジのレベルが最適となるよう(課題の)レベルやリソースを変える (8.2)
- 協働と仲間集団を育む (8.3)
- 習熟を助けるフィードバックを増大させる (8.4)

言語、数式、記号 のためのオプションを提供する (2)

- 図表や記号をわかりやすく説明する (2.1)
- 構文や構造をわかりやすく説明する (2.2)
- 文字や数式や記号の読み下し方をサポートする (2.3)
- 別の言語でも理解を促す (2.4)
- 様々なメディアを使って図解する (2.5)

表出やコミュニケーション のためのオプションを提供する (3)

- コミュニケーションに多様な媒体を使う (3.1)
- 制作や作文に多様なツールを使う (3.2)
- 練習や実題での支援のレベルを段階的に調整して流暢性を伸ばす (3.3)

自己調整 のためのオプションを提供する (9)

- モチベーションを高める期待や信念を持てるよう促す (9.1)
- 対処のスキルや方略を促進する (9.2)
- 自己評価と内省を伸ばす (9.3)

理解 のためのオプションを提供する (2)

- 背景となる知識を活性化または提供する (2.1)
- パターン、重要事項、全体像、関係を日立たせる (2.2)
- 情報処理、視覚化、操作の過程をガイドする (2.3)
- 学習の転移と応用を最大限にする (2.4)

実行機能 のためのオプションを提供する (5)

- 適切な目標を設定できるようにガイドする (5.1)
- プランニングと方略の向上を支援する (5.2)
- 情報やリソースのマネジメントを促す (5.3)
- 進捗をモニターする力を高める (5.4)

学びのエキスパートとは...

目的を持ち、やる気がある

いろいろな学習リソースや知識を活用できる

方略的で、目的に向けて学べる



CAST UDLの背景は？

様々な学習心理学や神経科学とICT

ヴィゴツキー 発達の最近接領域（障害学）

ブルーム 教育目標の分類

（想起・理解・応用・分析・評価・創造）

最新の神経科学 脳の働きとの対応

ガードナー マルチプルインテリジェンス（MI）

学習の好み（強み）

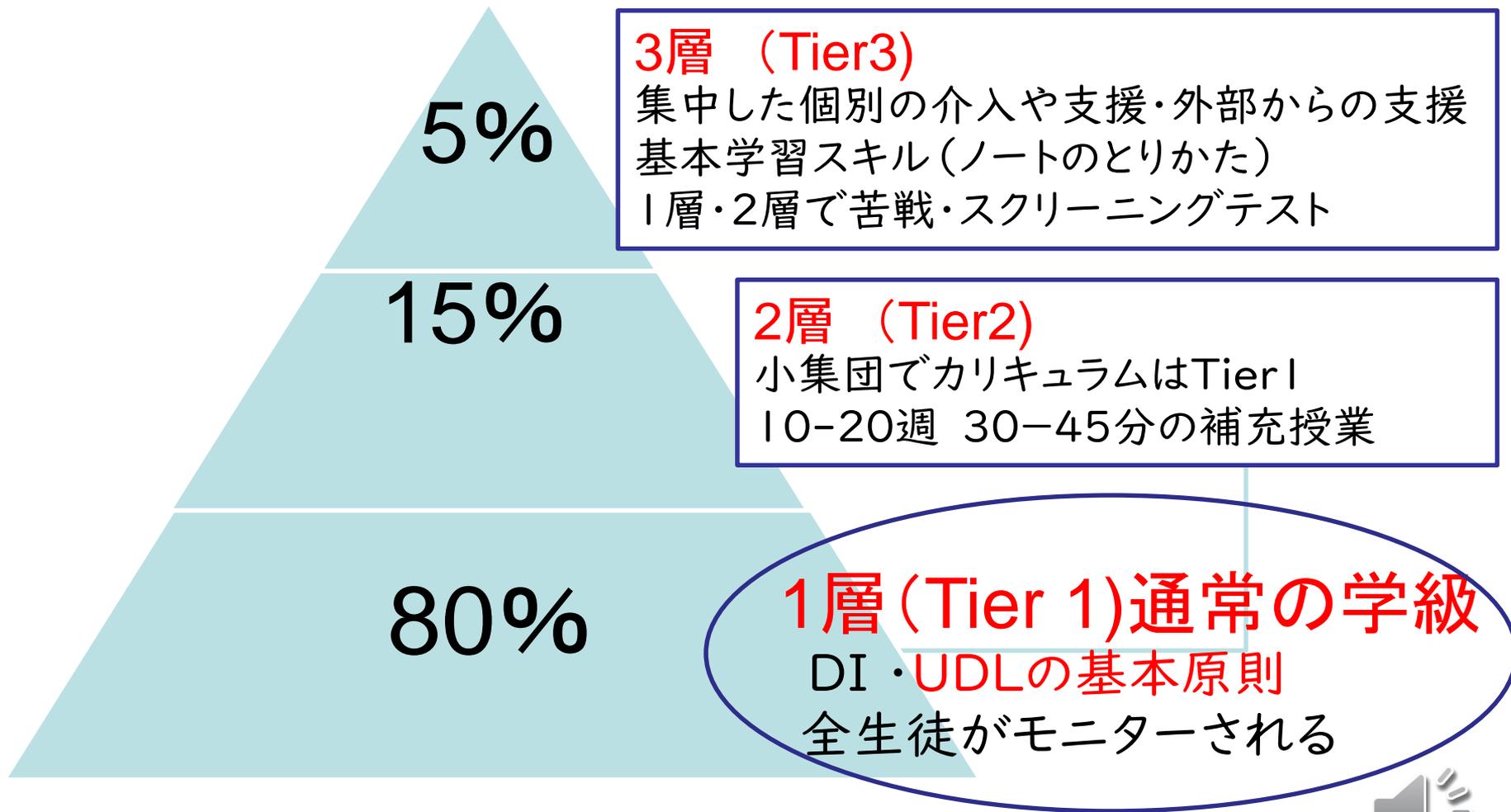
（視覚的 言語・非言語 ・聴覚的・運動や活動）

調整や変更を可能にするICT



介入への段階的アプローチ(RTI)

出典: オンタリオ州教育省, 2011年; マタール, 2008年.



福岡でめざす多層支援モデル(納富)

個別の
教育支援計画・
指導計画

本人と家族の協力 合理的配慮
専門家も交えて長期的な計画を立て
実践し、検証し、振り返り、改善

スクリーニング・SC・SSW
ケース会議の開催・補充学習

自分の強みがあること
適した学習スタイル
こうすればできることを知る

UDL

SEL 特活 教育相談

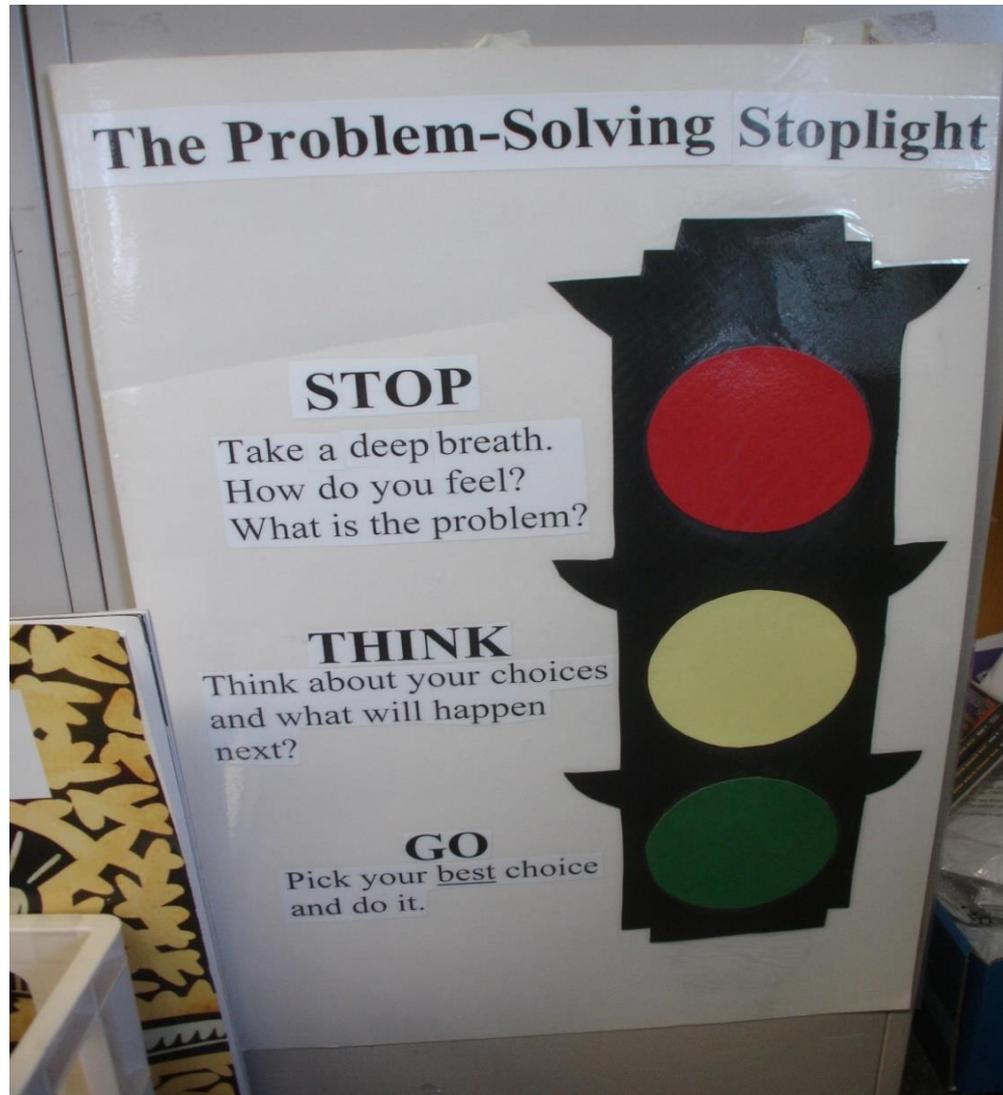
すべての子どもたちに

わかる・できる・もっとと思える
授業(UDL)
暖かで安心できるクラス
尊重し・対話・相談できるクラス



すべての生徒に問題解決力を

思考・判断・表現を促す(2006 米国ボストン小学校)



問題解決信号機

止まって(STOP)

深く息を吸って

どう感じてる

問題は?

考える(THINK)

何を選ぶ?

その結果は?

やってみる(GO)

ベストな選択をして

実行

通常の学級で児童生徒の

学びに焦点を当てた指導

- ・ 教える対象  主体的学習者へ

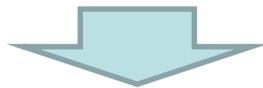
わかる・できる・もっと

- ・ 学習者の理解・表現・意欲に配慮した指導

*どのような工夫で、こどもたちは、わかるのか？

*どのような配慮で理解や思考を表現できるのか？

*どのような手立てが興味意欲を増し持続可能か？



多様性があることを教員が理解

学び方の多様性を尊重した指導の必要性

*ニューロ・ダイバーシティ



福岡UDL実践研究会 2021年度

<http://www.notomikeiko.com>

1回目(11/13) 対面 キックオフ

「電子国家エストニア 教育のICT活用」(須原誠氏)

2回目(3/8) ONLINE

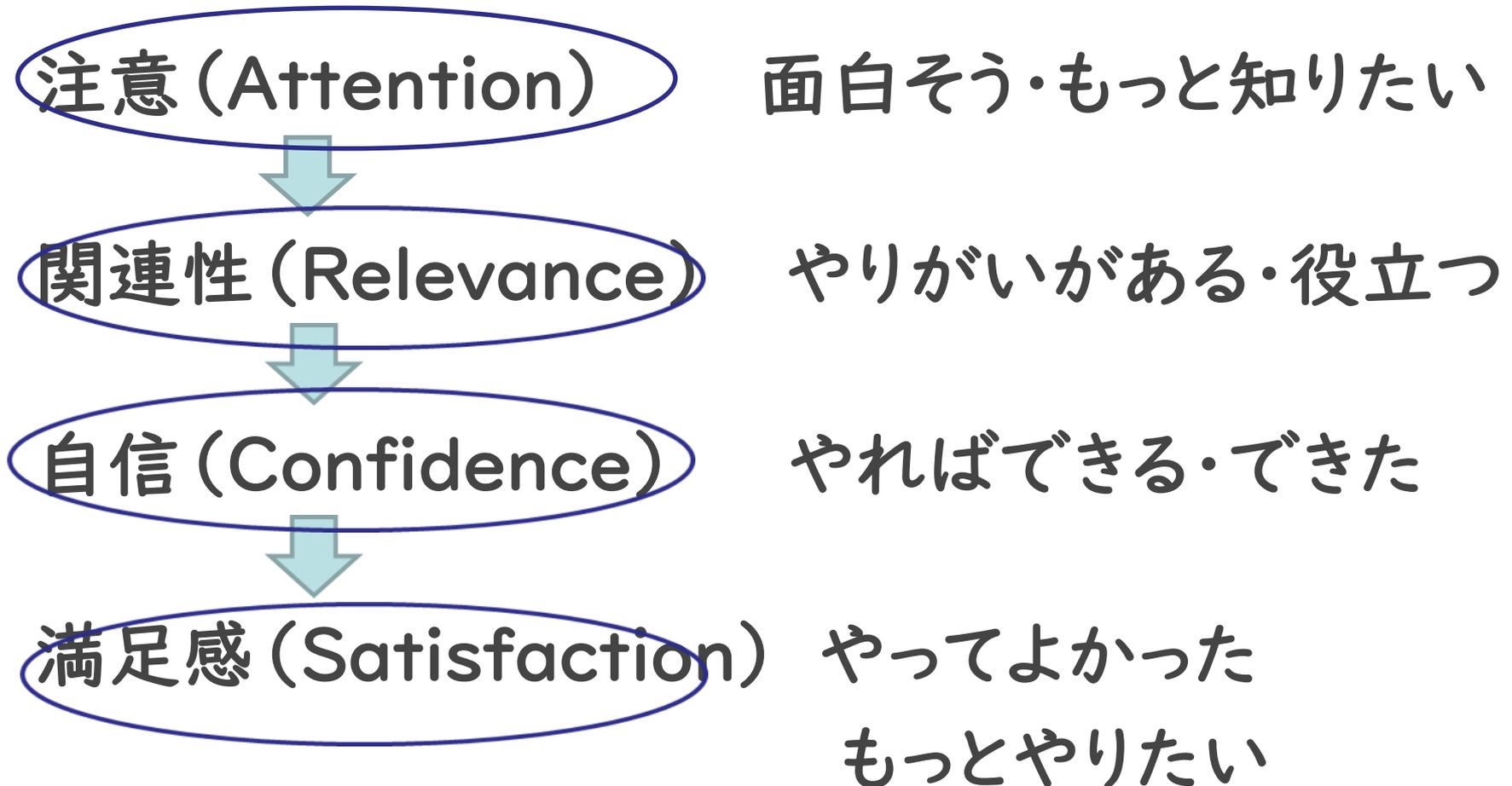
「中学校外国語科のフォニックス指導にUDLを
活用した授業実践とその効果」
(福岡教育大学教職大学院 百武美穂院生)

3回目(3/31) ONLINE

「UDLガイドラインを中学校でどのように広げるの？
英語教師が社会科教師にコンサルできる？」
(公立中学校教諭 百武美穂教諭)

研修への動機づけを高める

ARCSモデル (Keller, 1986)



ARCSモデル A

注意 (Attention)

学習者の興味や知的好奇心、探求心を刺激

知覚的喚起 — 学習者の興味を引き出す

例 米国先進校の教材写真・逸話

探求心の喚起 — 「学びたい」という気持ち

例 CAST動画などの紹介

変化性 — 興味・関心の維持

例 研修後の希望者のフォロー

関連性 (Relevance)

自信 (Confidence)

満足感 (Satisfaction)

UDL 学びのユニバーサルデザイン

私たちの提供する教育課程や学習環境が、

柔軟性がなく硬直していると、

それが「しょうがい」となり、

生徒を不必要につまづかせて障害のラベルをはっている
のでは？

出典 Rose & Meyer Ed. (2006) A practical Reader in Universal
Design for Learning, Harvard Education Press

参考になる動画

UDL at a Glance <https://www.youtube.com/watch?v=bDvKnY0g6e4>

CAST UDL Introduction <https://www.youtube.com/watch?v=viLC9Flo2a4>

* UDL教師用ガイド

<https://www.understood.org/en/articles/understanding-universal-design-for-learning> スタートガイド他

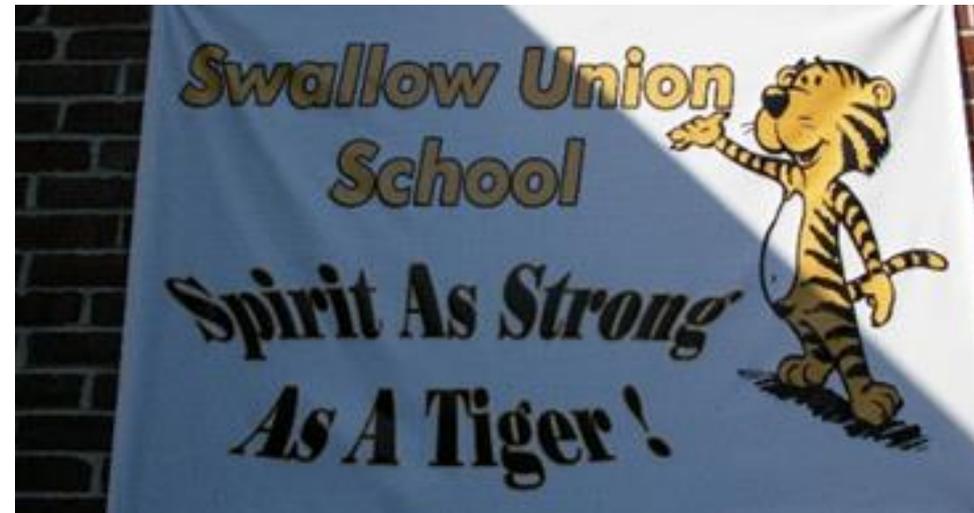


UDL先進導入学区訪問

グロトン・ダンスタブル公立学校 (K-12:プリ
スクール・小学校・中学校・高等学校) を訪問

(納富・西山, 2021)

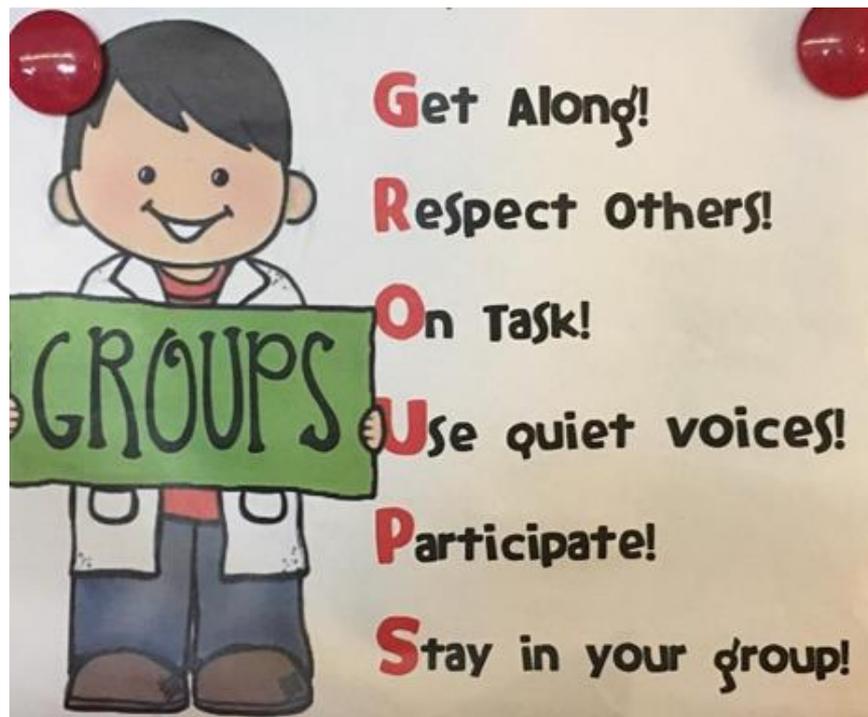
Florence Roche Elementary School Swallow Union Elementary School



納富恵子・西山久子 (2021) - 米国マサチューセッツ州公立学校
にみる 学びのユニバーサルデザイン(UDL)の活用 - 福岡教育大学
大学院教育学研究科教職実践専攻(教職大学院) -

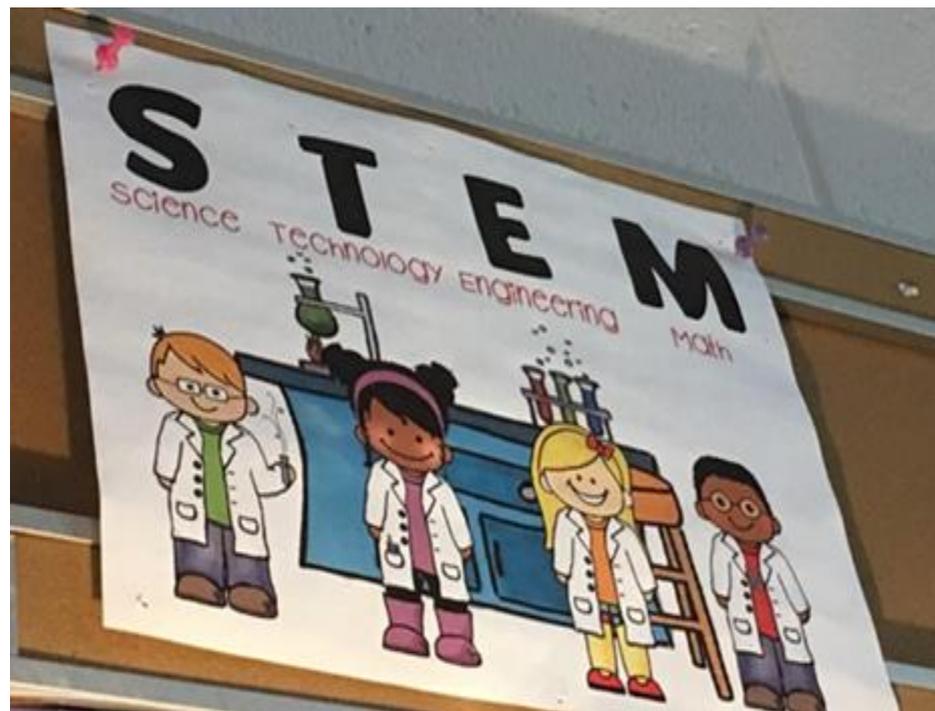
協働学習

グループでのルール



S STEMを解説

S サイエンス T テクノロジー
E エンジニアリング M 数学



学習目標
ブルームの分類学

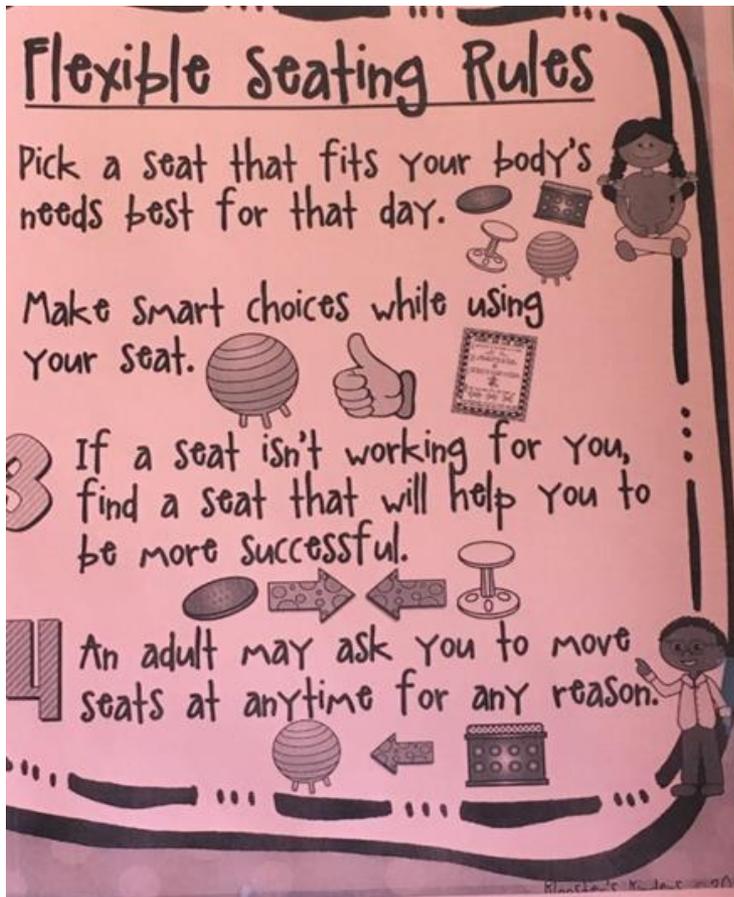


SNSなど情報への判断



FLEXIBLE SEATING RULES

自分に合った椅子を選択

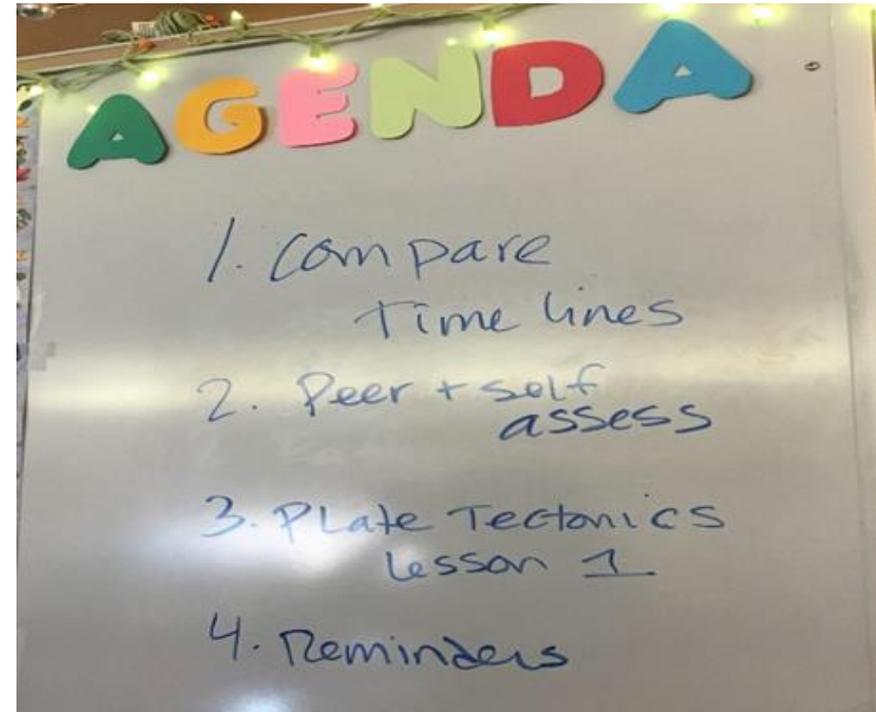
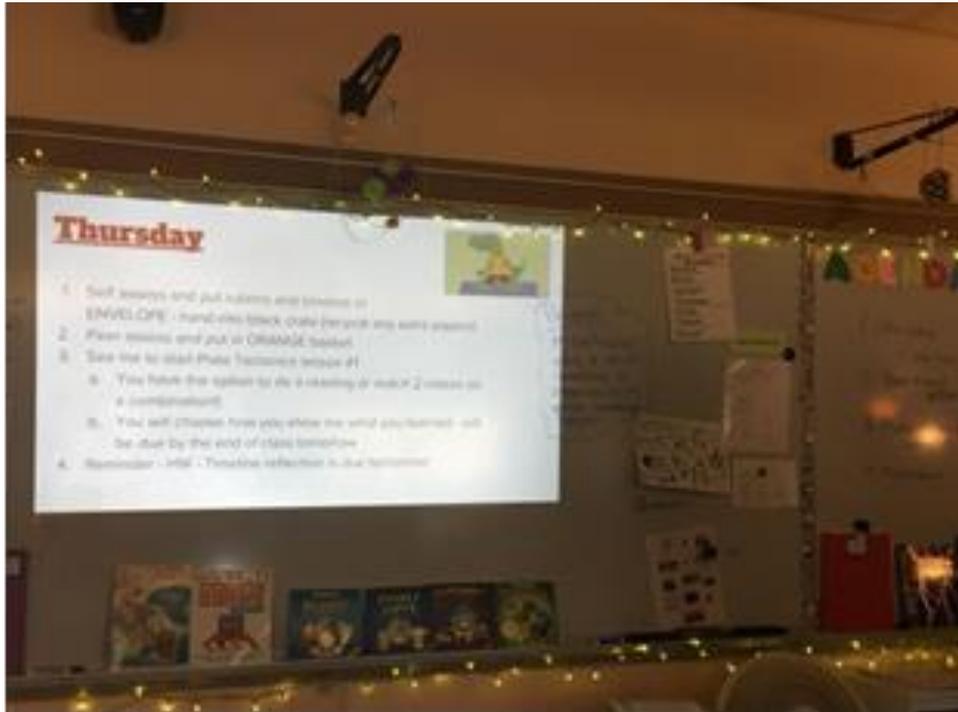


教室の隅に落ち着けるコーナー



授業の見通し

行動計画



多様性を認め、学びやすく、 見通しが持て安心して学べる学習環境

学習は誰のため何ためにおこなうのか？

どのように思考し、

自分をコントロールすればよいかのヒント

概念などを、すぐに参照できるように提示

ARCSモデル R

関連性 (Relevance)

内容の価値や学習プロセスの楽しさの実感

親しみやすさー 内容と経験を結びつける

例 UDLガイドラインを用いた振り返り
千々和・納富(2012)

目的指向性ー 内容と学習者の目的を結びつける

例 先行研究での成果

動機との一致ー 学習者にやりがいを実感

例 授業観察とフィードバック

自信 (Confidence)

満足感 (Satisfaction)

ARCSモデル C

自信 (Confidence)

学習過程での成功体験

「やればできる」という自信

学習欲求 やればできそう

例 先行実践の紹介 (千々和・納富, 2012)

ガイドライン1つからでも (百武教諭から)

成功の機会 成功体験 大橋先生の授業参観

例 児童の変化をモニター

コントロールの個人化 例 算数科の授業

満足感 (Satisfaction)

ARCSモデル S

満足感 (Satisfaction) 大橋先生から話題提供

身についてたことの有効性の実感

「やってよかった」という満足感、新たな学習意欲

内発的な強化 学習に関する興味・関心の向上

外発的報酬 (ランチでの振り返り・TC記録提供)

公平さ……………?

UDLガイドラインによる授業改善をめざす 小学校・中学校教員への実践的研修の実装

国内外
先行研究・実践
(ICT活用
含む)

福岡教育大学
教職大学院院
生実践

UDL研究会
相互の学び

福岡
UDL
実践
研究会

新実践者
2022現在

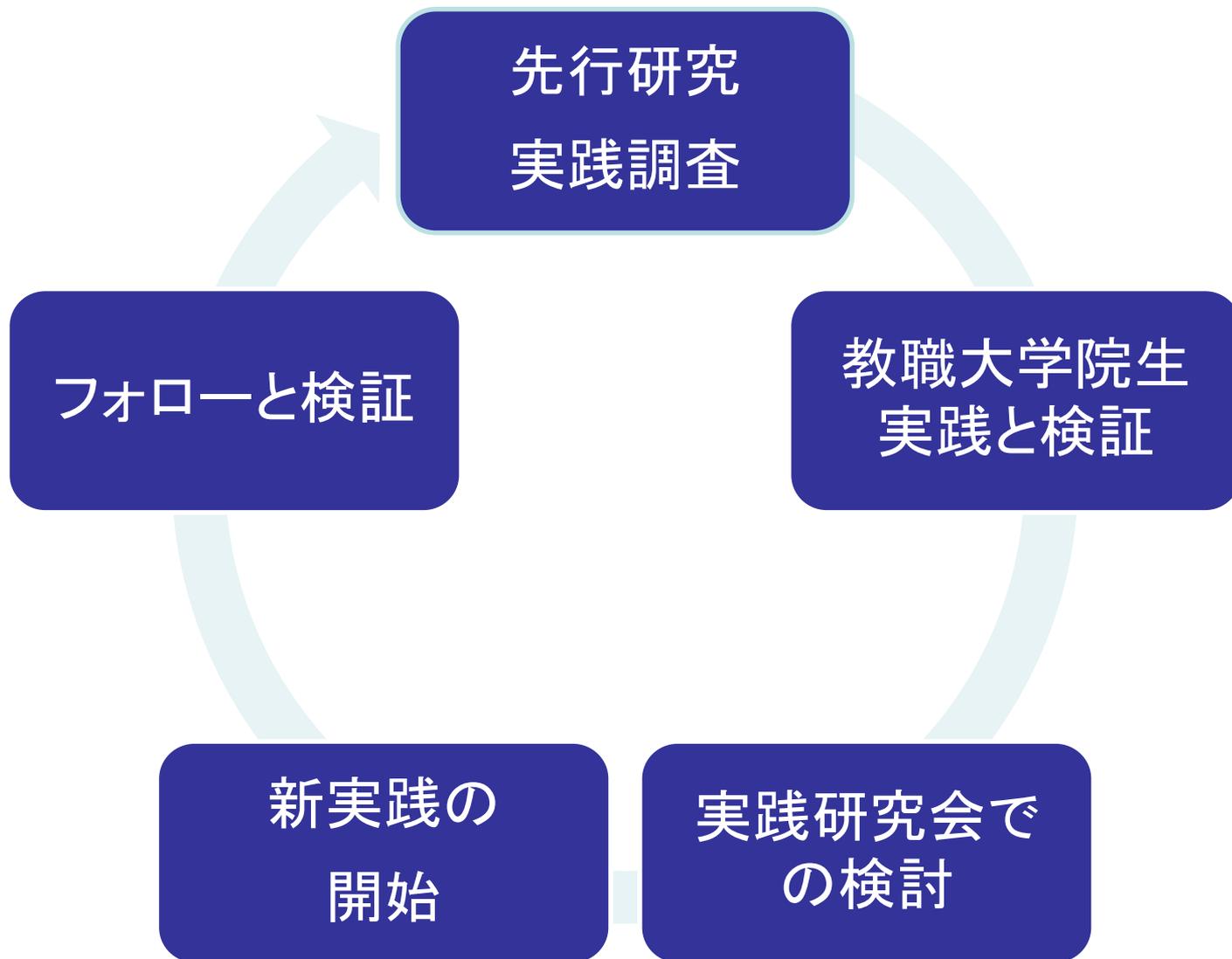
*立命館小

*筑紫東小

*中間高校

*APU立命館
アジア太平洋大学

持続可能なUDL実践と広がり



通常の学級の教員の専門性

多くの通常の学級の教員は、発達障害等の理解や知識、経験が不足しているとの声が聞かれる。

(中略)一方で、特別支援教育固有の視点のみでは特別支援教育の推進は困難であり、

学級経営力、授業力、人間形成力など教員としての基本的資質の総合力が求められる。

加えて各教科などに特別支援教育の視点を加えた授業力や、特別支援教育について最低限必要な知識・理解の上での応用力・判断力・対応力等も重要である。

教員の特別支援教育に関する専門性の現状と課題について(「特別支援教育の推進に関する調査研究協力者会議 審議経過報告」(平成22年3月24日)抜粋)

まとめ

福岡UDL実践研究会を中心に据えて

ARCSモデルを参考にしながら

小学校・中学校の教師がUDLを実践したいと思える
研修を提案した。

その詳細と成果と課題については、

話題提供2 西山久子先生

話題提供3 大橋均 先生

へ